

UKIYO-E

1867年、パリで開催された万博をきっかけに、ジャポニズムと呼ばれる日本ブームが起こりました。浮世絵を扱う画廊も設立され、日本の浮世絵が世界的に注目されるようになりました。プレイヤーは浮世絵を扱う美術商となり、浮世絵の個展を開いて成功を収めることを目指します。

プレイ人数: 2~4人 / プレイ時間: 20分 / 対象年齢: 10歳以上

内容物

浮世絵カード: 70枚
(以降、単に「カード」と呼びます)



国芳: 8枚
Kuniyoshi



歌麿: 10枚
Utamaro



写楽: 12枚
Sharaku



北斎: 14枚
Hokusai



広重: 16枚
Hiroshige



師宣: 4枚
Moronobu



豊国: 6枚
Toyokuni

ゲームの概要

各プレイヤーはパリの美術商となり、浮世絵カードを集めます。同じ絵師のカードを2枚以上集めることで、それらのカードを自分の前に公開してその絵師の個展を開くことができます。ゲーム終了時、各プレイヤーは自分が開いた個展から得点を得られます。ただしゲームはそれほど単純ではありません。自分が開いている個展と同じ絵師のカードを誰かがより多く集めた場合、その絵師の個展を開く権利を奪われてしまうのです。ゲームは全部で3ラウンド行い、最も多くの得点を得たプレイヤーが勝者となります。

浮世絵カード



【浮世絵】 7人の絵師のうちいずれかによって描かれた浮世絵です。同じ絵師、同じ得点であれば描かれている絵も同じです。

【得点】 ゲーム終了時に、そのカードで個展を開いていた場合に得られる得点が示されています。ただし各個展のうち得点になるのは、最も得点が高い1枚だけです(後述)。

【絵師】 絵師の名前ごとに色が割り当てられています。

【存在枚数】 赤枠内の数は、その絵師のカードが全部で何枚あるかを示しています。例えば広重のカードは16枚あり、師宣のカードは4枚しかありません。存在枚数が多い絵師のカードほど、得点の幅も広がっています。

ラウンドの準備

- 1 全ての浮世絵カードを裏向きにしてよくシャッフルします。
- 2 各プレイヤーにカードを裏向きのまま5枚ずつ配り、これを各自の手札とします。手札は互いに見えないように持ってください。
- 3 残りのカードは裏向きのまま1つにまとめ、山札としてテーブルの中央に置きます。
- 4 山札の隣に、捨て札置き場用のスペースを開けておきます。



ラウンドの流れ

最年少のプレイヤーがスタートプレイヤーとなります。スタートプレイヤーから時計回りの順に、各プレイヤーが手番を行います。手番では、以下の2つのアクションをこの順番で行います。

- 1 カードを2回引く
- 2 カードを1枚捨てる または 個展を開く

1 カードを2回引く

手番プレイヤーは以下の2つの場所から1つを選び、カードを1枚引いて手札に加えます。

- ・山札の一番上
- ・捨て札置き場の一番上

これを2回続けて行います。2回続けて同じ場所を選ぶことも、別々の場所を選ぶこともできます。ただし、ラウンド開始時などで捨て札置き場にカードがない場合や、ゲームが進んで山札にカードがない場合は、カードがある場所しか選ぶことができません。手札の上限枚数はありません。

2 カードを1枚捨てる または 個展を開く

カードを2回引いた後、手番プレイヤーは「2-a カードを1枚捨てる」「2-b 個展を開く」のどちらかを選んで行います。

2-a カードを1枚捨てる

「2-b 個展を開く」を行えない(あるいは行いたくない)場合、手番プレイヤーは手札からカードを1枚選んで捨て札にしなければなりません。

捨て札にしたカードは、表向きにして、捨て札置き場の一番上に重ねて出します。既に捨て札置き場にカードがある場合は、下になるカードがなるべく見えなくなるように重ねます。

捨て札置き場に出したカードは、以降の手番で誰かに取られるカードになることがあるため、どれを捨てるかを慎重に選ぶとよいでしょう。

2-b 個展を開く

絵師を1人だけ選び、自分の手札からその絵師のカードを自分の前に出すことで、その絵師の個展を開くことができます。

個展を開くためには、裏面のルールに従わなければなりません。

【個展を開くためのルール】

- ・選んだ絵師のカードを、2枚以上同時に手札から出さなければなりません。このとき、同じ絵が描かれたカード(得点が同じカード)が2枚以上あってもかまいません。出したカードは必ずして重ねて置いておき、カードの枚数と、そのうち一番得点が低いカードが全員によく見えるようにしなければなりません。
- ・選んだ絵師の個展をまだ誰も開いていない場合、何枚同時に出すかを自由に決めることができます。
- ・選んだ絵師の個展を既に誰か(自分自身を含みます)が開いている場合、その絵師の個展の現在のカード枚数を上回るように出さなければなりません。このとき、上回られたプレイヤーの個展にある全てのカードは、すぐに捨て札置き場に表向きで捨てなければなりません(つまり1人の絵師の個展が、同時に2つ以上開かれることはありません)。どのような順番で捨てるかは、捨てるプレイヤーが自由に決めることができます。
- ・選んだ絵師のカードを出すときに、その一部を手札に残してもかまいません。

重要：自分が既に開いている個展に対して、手札から同じ絵師のカードを付け足すことはできません。

自分の個展の枚数を、自分自身で上回るようにして個展を開くことなら可能です。自身の個展を上回った場合も、上回られたほうの個展のカードを全て捨て札置き場に置かなければなりません。

例1：

プレイヤーAは「国芳」のカード2枚からなる個展を開いています。プレイヤーBが「国芳」の個展を新たに開くためには「国芳」のカードが3枚以上必要です。

Bは「国芳」のカードを4枚出して個展を開きました。Aは自分の前にある2枚の「国芳」をすぐに捨て札置き場に置きました。

例2：

プレイヤーAは「北斎」のカード2枚からなり、得点が3点の個展を開いています。その後、山札から「北斎」のカードを引きましたが、これは自分の個展に付け足すことはできません。

Aはその後、自分の手札に「北斎」が4枚たまりました。4枚のうちの3枚を組み合わせると得点が6点の個展を開けるため、A自身の枚数を上回るようにして「北斎」3枚の個展を開きました。既に出していた2枚の「北斎」はすぐに捨て札置き場に置きました。

ラウンドの終了

いずれかのプレイヤーの手番終了時に、以下の2つの条件のうち1つ以上が満たされている場合、そのラウンドの終了条件を満たしたことになります。

- ・全プレイヤーが開いている個展の合計が6つになった(プレイヤーは7人目の絵師カードで個展を開くことはできません。)
- ・裏向きの山札がなくなった(捨て札置き場にどれだけカードがあるかは問いません)

その後、上記のいずれかの条件を満たしたプレイヤー以外の方全員が1回ずつ最後の手番を行って現在のラウンドが終了し、得点計算に進みます。

重要：各プレイヤーの最後の手番では、「②-b 個展を開く」でまだ個展が開かれていない絵師の個展を開くことはできません(裏向きの山札がなくなって終了条件を満たし、開かれている個展が5つ以下だとしてもです)。既に個展が開かれている絵師であれば、枚数を上回るように個展を開くことが可能です。

例：

プレイヤーAは自分の手番で「歌麿」3枚からなる個展を開きました。これで全プレイヤーが開いている個展が合計6つになったため、ラウンドの終了条件が満たされたことになります。その後、プレイヤーB、Cが最後の手番を1回ずつ行ってから得点計算に進みます。

Bがカードを2枚引いた後の手札には、まだ個展が開かれていない「豊国」のカードが2枚あります。しかし最後の手番では、まだ個展が開かれていない「豊国」の個展をこれから開くことはできません。既に開かれている個展を上回るようなカードもないため、カードを1枚捨てて手番を終えました。

Cがカードを2枚引いた後の手札には「広重」のカードが5枚あります。「広重」の個展はC自身が3枚で開いていますが、手札のうち4枚で「広重」の個展を開くと得点が増えるため、「広重」の個展を4枚で開いて手番を終えました。

ラウンドの得点計算

まず、各プレイヤーは手札を全て捨て札置き場に置きます。これらのカードが得点になることはありません。

その後、プレイヤーは自分が開いている各個展から、得点が最も低いカードを1枚だけ脇に避け、それ以外のカードを全て捨て札置き場に置きます。いま脇に避けたカードはそのまま自分の得点として獲得し、手元に置いておきます。獲得したカードは、自分が開いている個展と区別できるように裏向きにしてください。

いま終了したのが1、2ラウンド目なら、次のラウンドを開始します。山札、捨て札置き場の全てのカードを集めて裏向きにしてよく混ぜ、ラウンドの準備を②から行ってください。

このとき、得点として獲得したカードを混ぜてしまわないように注意してください。2ラウンド目以降は、直前のラウンドで個展が開かれていた絵師のカードが1枚ずつ減っていくことになります。

次のラウンドのスタートプレイヤーは、このラウンドで終了条件を満たしたプレイヤーです。

ゲームの終了

いま終了したのが3ラウンド目なら、ゲームは終了します。

3ラウンドの間に獲得したカードの合計得点が最も高いプレイヤーが勝者となります。

同点最多のプレイヤーが複数人いる場合、そのうち獲得したカードの枚数が最多のプレイヤーが勝者です。それも同数の場合、それらの全員で勝利を分かち合います。

ゲームデザイン：Michael Schacht

ゲームデベロップ：佐藤敏樹

アートワーク：TANSAN

ルール校正・校閲：西田誠

製造・販売元：さとーふあみりあ

2025年5月17日 初版発行

2025年10月1日 第二版発行

www.michaelschacht.net

連絡先：toshikis227@gmail.com

©2025 Michael Schacht / Toshiki Sato / TANSAN